

東北地方 1か月予報

(7月20日から8月19日までの天候見通し)

平成14年7月19日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多いですが、期間の中頃を中心に前線や気圧の谷の影響を受けやすく、曇りや雨となる時期もあるでしょう。

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か低い、3~4週目は平年並の見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月20日(土) ~ 8月19日(月)

1週目 : 7月20日(土) ~ 7月26日(金)

2週目 : 7月27日(土) ~ 8月2日(金)

3~4週目 : 8月3日(土) ~ 8月16日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日14時30分 次回は7月26日

3か月予報: 7月22日(月) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	22.9	149.7	169.8	22.0	23.2	23.3
新庄	24.1	155.3	186.1	23.4	24.4	24.3
若松	25.0	131.1	205.0	24.4	25.3	25.1
深浦	23.2	142.7	192.4	22.5	23.4	23.5
青森	23.1	113.0	194.3	22.2	23.4	23.5
むつ	21.7	113.0	161.7	20.7	21.9	22.0
八戸	22.4	112.7	182.9	21.4	22.7	22.8
秋田	24.6	156.9	201.3	23.9	24.8	24.9
盛岡	23.5	156.4	165.3	22.8	23.8	23.6
宮古	22.1	136.1	171.9	21.1	22.3	22.5
酒田	25.1	151.4	218.6	24.3	25.3	25.3
山形	24.9	131.9	188.5	24.3	25.3	25.1
仙台	24.0	144.0	157.4	23.1	24.3	24.4
石巻	23.3	105.9	178.6	22.4	23.4	23.7
福島	25.3	129.8	163.4	24.6	25.7	25.6
白河	23.4	183.4	158.7	22.9	23.7	23.6
小名浜	23.5	109.2	194.0	22.6	23.4	23.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.7	74~120	90~111
東北日本海側	-0.6~+0.5	76~115	91~112
東北太平洋側	-0.4~+0.7	73~122	90~112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+1.1	-0.5~+1.2	-0.5~+0.8
東北日本海側	-0.6~+1.0	-0.6~+1.1	-0.6~+0.8
東北太平洋側	-0.7~+1.3	-0.5~+1.3	-0.5~+0.9

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めています(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年7月19日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(7月20日~8月19日) :

太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多いですが、期間の中頃を中心に前線や気圧の谷の影響を受けやすく、曇りや雨となる時期もあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(7月20日~7月26日) :

期間の前半は梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いですが、後半は高気圧に覆われておおむね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(7月27日~8月2日) :

太平洋高気圧に覆われ晴れる日もありますが、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3~4週目(8月3日~8月16日) :

太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多いですが、前線や寒気の影響で雨や雷雨となる時期もあるでしょう。

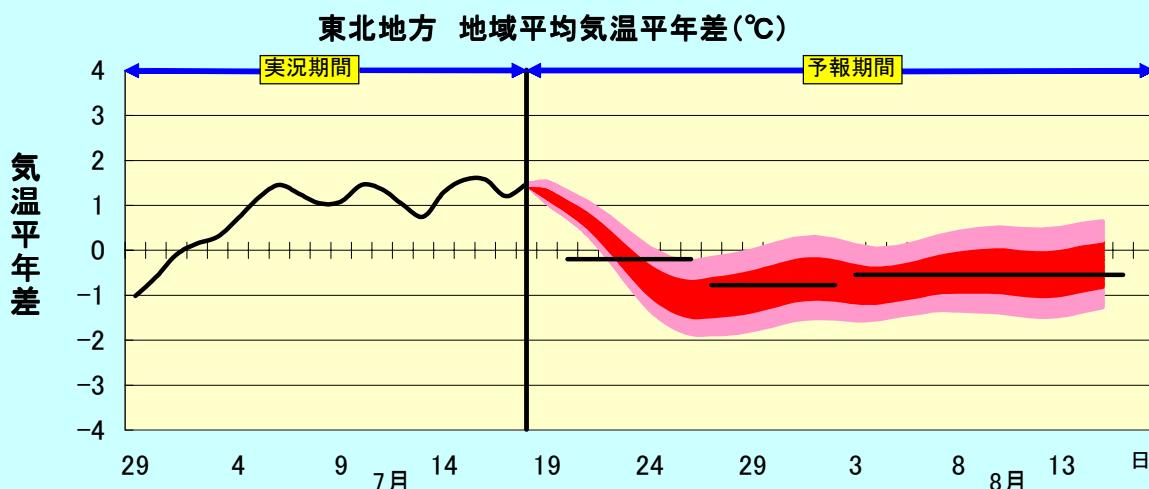
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.7日	4.1日	4.0日	8.6日
東北太平洋側	14.7日	3.4日	3.7日	7.6日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目は「低い」、3~4週目は「平年並」を予測している。予報は、その他の資料から2週目を「平年並か低い」とする他は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は大きい。



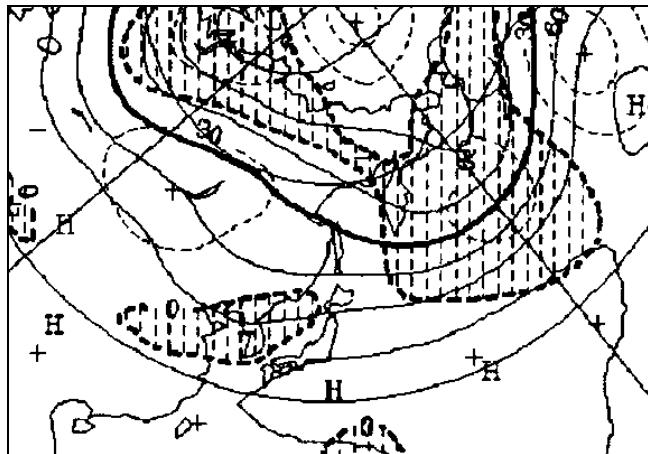
* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方地域平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)

と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

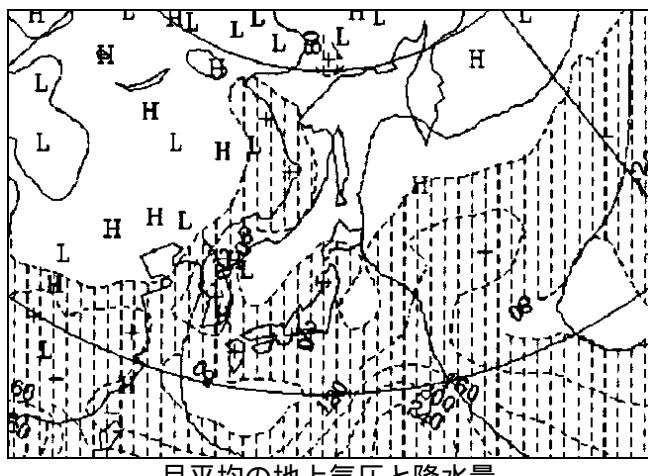
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、太平洋高気圧は北緯 30 度帯に沿って西に伸び、平年よりやや南に偏っている。華中から日本海北部にかけては負偏差で西谷傾向。

週別（図略）では、1 週目は太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、北日本から日本海、九州にかけて負偏差。2 週目は、太平洋高気圧が西へ張り出すが南に偏るため、北日本や日本海は負偏差。3~4 週目は太平洋高気圧が北に勢力を伸ばし、日本付近は正偏差となる。



地上気圧と降水量

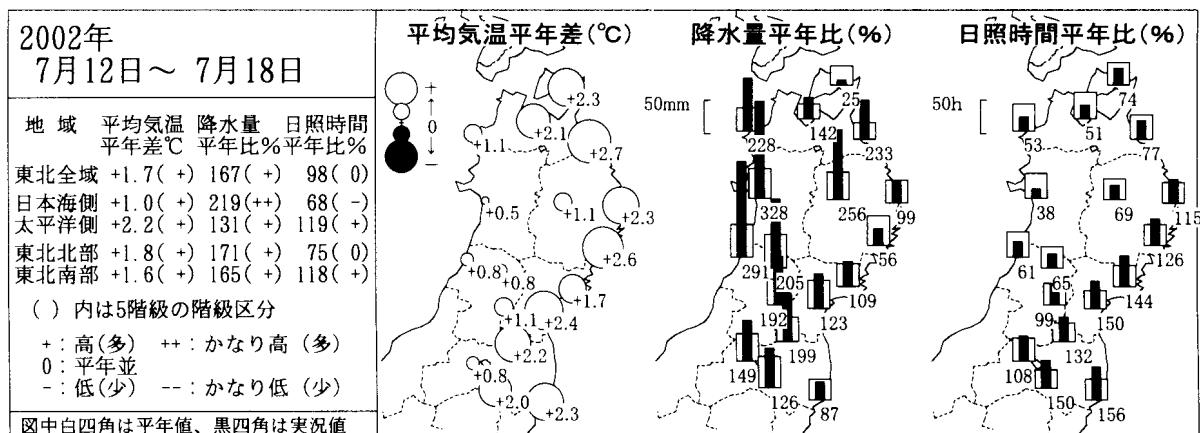
月平均で見ると、太平洋高気圧が北緯 30 度帯に沿って伸びている。一方、オホーツク海には高圧部が平年より強く予想されている。本州付近は、弱い凝結域に覆われている。

週別（図略）では、1 週目は日本の南海上が低圧部となっている。2 週目には、太平洋高気圧が西へ張り出すが、勢力の中心は日本の南海上。オホーツク海には弱い高気圧がある。3~4 週目には太平洋高気圧が北へ勢力を広げてくる。一方、オホーツクの高気圧も強まりが予想されている。

4. 最近 1 週間（7月 12 日～7月 18 日）の天候の経過

この期間、始めと終わりは晴れて、真夏日となった所があったが、その他は梅雨前線や台風第7号の影響で曇りや雨の日が多く、東北日本海側を中心に大雨となった所があった。秋田県では14日に山・かけ崩れが発生した。

平均気温は、東北地方で平年差+1.7 と高かった。降水量は、東北日本海側で平年比219%とかなり多く、東北太平洋側で平年比131%と多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比68%と少なく、東北太平洋側で平年比119%と多かった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）